

令和2年度 鯖江高等学校(全日制) 学校評価書

| 項目 | 具体的取組 | 成果と課題(令和2年度) | 改善策・向上策(令和3年度) |
|-------------------------|--|--|---|
| 1 教育課程 学習指導 研修 | <p>分かりやすい授業づくりに努める。 目標:授業改善に関する目標指数70%以上</p> <p>分かりやすい授業に関する目標指数80%以上</p> <p>学習手帳「みのり」等を活用し、家庭学習の習慣を定着させる。 目標:家庭学習の定着に関する目標指数70%以上</p> | <p>・授業理解と家庭学習の定着について 生徒の授業理解については、全学年で89.8%と昨年度より2.2ポイント上昇している。保護者の認識は生徒より約9ポイント低く推移している。 家庭学習の習慣化について、平日1時間以上学習している割合は54.4%と目標指数に到達していない。学年ごとに見ると、1年生51.2%、2年生51.7%そして3年生61.1%と、学年が上がるほど割合が高くなっている。昨年度も同じ傾向があった。家庭学習の習慣があまりついていない生徒が多く入学し、学年が上がるごとに習慣化する生徒の割合が増えていく傾向にあると考えられ、入学当初の初期指導が3年間の家庭学習の定着に影響すると考えられる。</p> <p>・授業改善について 昨年度各教室にプロジェクターが設置され、資料集のグラフの解説、実験動画、題材のイメージを膨らませるための写真や動画、生徒のノート、グループ活動の結果発表、公式や文法を常に表示など、各教科・教員により積極的に利用されている。ICT利用においての教材の共有化を図る必要がある。</p> | <p>・授業理解と家庭学習の定着について 進路指導部と連携し、入学当初から、自分の進路について意識させることにより、生徒が家庭学習の必要性を理解し、主体的に取り組むことで、家庭学習の習慣を定着させ学力の向上につなげていく。そのため「みのり」の積極活用を図っていく。 4月にはクラス生徒全員への個人面談を実施する。2・3学期はじめには気になる生徒への面談、考査終了後や心配な生徒には個人面談を適切にできるように担任・副担任・学年主任の連携を図る。 各課題提出状況を教科担当者と担任が共有し、生徒指導につなげる。 職員室の前の質問コーナーと放課後の自習室の活用を促し、個別指導の充実を図る。 帰宅時間について、各部顧問との連携を強化する。</p> <p>・授業改善について 授業力向上と生徒の思考・判断・表現力の向上を目指し、毎学期に授業公開期間(2週間)を実施する。高校だけでなく丹南地区を中心とした中学校にも周知し、研究授業を実施する。 各教科の中で授業研究を進めていく。 ICTについては、授業公開週間等を通じて、他の教科や教員の活用方法を学び、活用方法の幅を広げ授業改善に役立てていく。</p> |
| 2 生徒指導 | <p>正しい服装容儀が身につくようにする。 目標:正しい服装容儀が身につく目標指数95%以上</p> <p>保護者との連携により、遅刻者を減らす。 目標:遅刻に関する目標指数95%以上</p> <p>生徒間の支え合いを通したいじめ・問題行動の防止に取り組む。 目標:啓発、指導に関する目標指数90%以上 思いやり・助け合いに関する目標指数80%以上</p> | <p>指導部の取り組みの重点目標として例年同様、「正しい服装容儀を身につける」とした。コロナ禍で、1学期は全校集会が実施できなかったことで、生活指導面で心配したが、保護者に対するアンケート結果では、98.5%(昨年度99.0%)となり目標指数の95%以上を達成した。また、生徒は風紀検査で不合格回数が年間1回以内の生徒(A+B)は96.6%(昨年度96.6%)と、昨年度と同じで、正しい服装容儀で生活を送るという習慣はほぼ身につけていると考える。生徒会執行部員と風紀委員による、ミニ風紀検査も生徒自身の意識を高める効果があり、正しい服装容儀で学校生活を過ごしている生徒がほとんどである。</p> <p>アンケートの回答は、保護者でA+Bが、今年度96.9%(昨年度97.7%)と目標指数の95%を上回った。また、生徒は不注意による遅刻の回数が年間A 0回が83.8%、B 1回～3回が14.5%で、3回以下の生徒が98.3%(昨年度98.8%)となり、目標指数の95%を上回った。ただし、今年度と昨年度を比較すると、全校生徒数が増えたことで、割合的には同様の高い%ではあるが、コロナ禍で登校日が少なかった点や朝読書が2学期から始まった点を考慮すると、遅刻者の延べ人数が増えていることに対して注意喚起が必要と考える。</p> <p>「思いやりや助け合いの心を持って人に接しているか」の回答においてA+Bは、保護者が94.7%、生徒が95.6%と、目標指数の80.0%は大きく上回っているが、Aだけの回答は、保護者が36.5%、生徒が47.4%と、生徒指導の評価観点でBよりもAの値が小さいのはこの観点だけである。「みのり」を通して生徒からの声を聞いたり、年間4回のいじめアンケートの実施したりして、いじめがあった場合は、すぐに担任、学年主任、教育相談担当者等が連携を取って対応し、大きいいじめに拡大することを防ぐことができた。</p> | <p>コロナ禍ではあったが、例年どおり服装容儀検査は年間8回行っている。容儀面ではよい傾向が継続している。教員に対するアンケート「服装・頭髪が気になる生徒に対して」で、その都度積極的に指導した、まあまあ指導したという回答が95.3%(昨年度94.3%)で目標指数の95%以上を達成した。今後も全教職員体制での指導を継続する。風紀検査不合格回数が多い一部生徒に関しては、指導部・担任・保護者との密な連携を図り指導することで、正しい服装容儀での学校生活を徹底させる。また、ミニ風紀検査も十分な効果がみられたので、引き続き実施していく。</p> <p>遅刻者の延べ人数を減らすために、始業時間ぎりぎりに来る生徒に対しては、「予鈴までに生徒玄関に入ろう」だけではなく、「朝読書が始まる時間に教室に入り座っているためには、あと〇分早く家を出ればいいのか?」、「交通事故にあわないよう安全に余裕をもって登校するためには、あと△分早く家を出ればいいのか?」と、生徒自身が意識するように声かけを積極的に繰り返す。また、生徒会執行部の生徒と協力し、予鈴前登校の運動を展開させる。</p> <p>教員に対するアンケートの取り組みにおいてA+Bは、97.6%(昨年度89.2%)で目標指数の90%を上回っている。いじめ・不登校・問題行動について、今後も発生した際には、マニュアルに従い関係する教員間の連携、保護者との連携を密にとって迅速に対応し、問題点を追及して防止できるよう取り組んでいく。</p> |

| | | | |
|----------------------|--|--|---|
| <p>3 進路指導</p> | <p>進路学習などを通して、進路情報を提供し、適性にあった進路目標の早期設定に努める。</p> <p>目標:進路情報の満足度に関する目標指数80%以上 進路目標の設定など進路意識に関する目標指数が80%以上</p> | <p>アンケートの結果、「必要な進路情報を入力し、活用できた」との回答がA+Bで生徒が88.0%、保護者が91.1%で目標の80%は達成できており、学年が進むにつれて満足の高くなってきている。学年会や進路指導部を通して進路情報誌や「新聞を読もう」を頻繁に配布して受験情報を掲載した結果と思われる。特にコロナ下の大学入試共通テストの感染拡大時の対応や新入試の注意点、Q&Aに関する情報を頻繁に提供した。</p> <p>「進路目標の設定」に関する調査はA+Bで生徒が87.7%、保護者が86.5%で高い割合を占めている。進路指導部・担任を中心に、進路意識の向上に努めた結果が現れたと思われる。また、コロナ禍で臨時休校中ではホームページを利用して必要な情報を提供した。</p> | <p>昨年度よりわずかであるが保護者の満足度の割合が減少しているため、今後は各種進路刊行物やホームページの「進路部だより」を活用して進路情報を保護者が昨年以上に利用できるようにする。また、学年主任と担任に進路指導の協力を依頼するとともにタイムリーな進路情報を一層充実させて、的確な進路情報を提供する。</p> <p>さらに、昨年同様に担任との連携を密にして、総合的な探究の時間やスタディーサポートの結果を利用して、進学・就職の意義をより深く理解させ、生徒の進路に向けての意欲を高める。また、課外授業、模擬試験の重要性を理解させ、模擬試験の事前指導、事後指導を行うに当たり、デジタルサービス等の活用法を担当・生徒に周知し、充実した進路指導に努める。</p> |
| <p>4 保健・安全管理</p> | <p>健康管理について、生徒に啓発を行うとともに、その指導を充実させる。</p> <p>目標:日常の健康管理についての啓発、指導に関する目標指数70%以上</p> <p>安全・美化に対する意識を高める指導を充実させる。 目標:安全・美化に関する目標指数 80%以上</p> <p>生徒が困ったときに適切に対応する。 目標:適切な対応に関する目標指数 70%以上</p> | <p>コロナ感染症の影響下にあり、例年以上に健康管理や疾病予防に対する意識が高まるよう啓発・指導に取り組んだ。保健便りの発行、ポスター掲示、集会時の指導、保健委員による熱中症や感染症予防・教室内換気など、啓発活動を充実した。回答結果は、生徒92.3%、保護者93.6%と高い数値を示し、健康や体調管理が出来ていると考えられる。教職員の取り組みについては90.6%という結果であった。</p> <p>安全・美化活動として、避難訓練や全教職員による清掃指導を実施した。回答は生徒が97.5%、保護者は93.6%と高い数値を示し、防火防災に対する意識や清掃活動への取り組みが良好であると考えられる。教職員は96.9%であり、目標の80%を超える結果となった。</p> <p>生徒が困ったときの対応について、保健室や相談室が学年会等と連携しながら進めた。回答は生徒が91.1%、保護者は93%、教職員は96.9%であった。いずれも高い数値を示しており、目標の70%を超える結果となった。</p> | <p>次年度も今年度同様、日常生活から健康管理や疾病予防の指導・啓発を図るために、生徒や保護者に注意喚起のプリントを配布し意識を高め、自己管理能力を高めるよう努める。教職員には健康に関する情報を提供すると同時に状況把握に努め、積極的な指導を呼びかける。</p> <p>適切な時期を機会をとらえて安全の情報を伝達し研修や訓練等を行う。清掃指導を継続し、環境美化に努める。</p> <p>年度始めのLHで生徒間のコミュニケーションが上手くとれるようなエンカウンター教材を提供して、学級開きがスムーズにいくよう担任の支援を行う。</p> |
| <p>5 図書指導</p> | <p>読書意欲を啓発し、図書館利用を促進する</p> <p>目標:読書意欲の啓発に関する目標指数70%以上 読書に親しむことに関する目標指数60%以上</p> | <p>生徒の年間読書量については、「私の読書量」は、1年間で「A(5冊以上)B(3~4冊)」と答えた生徒が昨年度は55.0%であったが、本年度は65.3%と約10%ポイントし、目標の60%を上回った。その要因は2学期から始業前に10分間の朝読書の時間を設け、生徒たちが学校で読書に親しむようになった成果が現れたものと思われる。</p> <p>保護者の「お子さんは、広い意味での読書(新聞・書籍・電子書籍など)に親しんでいる。どちらかと言えば親しんでいる。」との回答は59.8%と昨年度並みである。生徒は学校での読書量は増加したが、家庭ではあまり増加していないようであるため、学校での読書指導が家庭での読書につながることを目指したい。</p> <p>教員による読書意欲の啓発は81.0%と、目標の70%を大きく上回った。朝読書や授業を通してそれぞれの教員が、啓発活動に努めた結果だと考える。来年度も「図書館だより」など、図書館からの新着情報を積極的に発信し、生徒が読書に親しむ環境を整えていきたい。</p> | <p>本年度は、1学期より朝読書を開始する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で、4、5月が休校となり、朝読書の時間を設けられなかった。来年度は1年間を通して朝読書を実施することで、読書意欲を喚起し図書館利用を促す活動を行う。また、朝読書開始後に登校している生徒が若干見られたため、時間に遅れないように登校するよう指導する。</p> <p>事前の図書委員会による本の準備の連絡、おすすめ本の紹介など広報活動を充実させ、読書への意欲を高め、読書の推進に努める。</p> <p>今後も、「図書館だより」で図書館情報を提供し、図書館の本を階段踊り場や図書館横の掲示板で紹介していく。また、館内のコーナーでは、棚作りなどにより新刊本や話題の本などを展示して宣伝する。</p> |

| | | | |
|---------------------------|---|--|---|
| <p>6 地域に根ざした学校づくり</p> | <p>地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進する。 目標:授業での活用に関する目標指数60%以上 地域に関する興味関心に関する目標指数50%以上</p> <p>ホームページの充実を通して最新の広報に務める。</p> <p>目標:更新に関する目標指数70%以上 HPの満足に関する目標指数60%以上</p> | <p>地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進していく活動について、今年度は新型コロナウイルスの影響により、活動そのものに制限があったため、教員が授業で地域教材を活用した結果が(A+B)で53.3%と、期待していたほどの結果が得られなかった。しかし生徒が地域について興味を持った結果が(A+B)で65.5%、保護者が生徒と地域の話について話をしている結果が(A+B)で57.3%と、ある程度の結果が得られた。これらはこれまでの本校が地域協働の取り組みを続けてきた結果であると思われる。</p> <p>個々の教員がホームページ更新に協力する割合は46.5%と低い。特定の教員がホームページ更新をしていることが要因と考えられるが、一人ひとりの教員がそれぞれ担当する分野の情報を気軽に発信できる環境を整えていく必要がある。</p> <p>保護者の「学校はホームページの充実につとめていると思う。」について、よく当てはまる・やや当てはまるが、併せて66.8%と昨年度の59.1%と比べて7.7ポイント増加した。学校行事や部活動、高校再編などの情報を逐次発信してきた成果であろう。また、「ホームページを見たことがないのでわからない」と回答している保護者が全校で13.5%と、前年度の17.3%から3.8ポイント減った。今後も保護者にホームページを見てもらえるような啓発活動を行いたい。</p> | <p>文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定の最終年度になり、この事業の総括をすることで、地域協働の活動をさらに定着させていき、本校の全教員でこの活動に取り組んでいく体制を充実させていく。</p> <p>ホームページを見る機会を増やすために、興味のある情報を掲載し、更新頻度をさらに上げて保護者・地域の方がホームページから鯖江高校の情報を閲覧できるように努める。また、今年度のように行事予定等の変更などをスピーディーにアップする。</p> <p>校務分掌、部活動、地域協働事業など、できるだけ多くの情報を発信できるよう、働きかけていく。</p> |
|---------------------------|---|--|---|